

Interview by Diana Schoberg
Photography by Lucy Hewett

Simply irresistible

あらがえない魅力

ステファニー・アーチック会長エレクトは、
ロータリー行動計画が活力ある未来への鍵だと考えます



国際ロータリー（RI）会長エレクトのステファニー・アーチック氏は、変化を受け入れる人です。変化を前にしてひるむ人ではありません。RIにある彼女のオフィスの棚には、クラブ名簿やバナー、記念のプレートや盾が並んでいますが、その中に色とりどりの葉で飾られた木製のフレームがあります。そ

こには「秋、それは変化が美しいことの証拠（Fall is proof that change is beautiful）」と記されています。

「私がチョウを好きなのも同じ理由です。チョウが成虫になる前は小さな殻の中にいて、見た目はそれほどでもありませんが、やがて飛び出し、美しい生き物になります」とアーチック氏は言います。

アーチック氏は、ジャケットにロータリーの Action Plan（行動計画）のピンを着けています。会長エレクトは変化を遂げたいと願うロータリークラブのための指針として、ロータリーの行動計画を支持しているのです。「あらがえないほど魅力的なクラブとなるために、クラブの文化を変える方法を支援したいと思っています。毎年、15万人がロータリーに入会し、16万人が退会しています。それはつまり、クラブでの体験に価値を見いだせない

人がいるということです。これらの人は、ロータリーを去るのではなく、体験したロータリークラブを去るのです。ですから、クラブには現状を調査してもらう必要があります」

アメリカ・ペンシルベニア州マクマーリー・ロータリークラブの会員であるアーチック氏は、1991年にロータリーに入会。すぐにロータリー財団の活動に魅了されました。入会当時、ロータリーのポリオ根絶活動を知り、強い関心を抱きました。クラブの財団

委員長に就任後、地区財団委員長を務めました。その後、財団地域コーディネーターとして寄付推進に重点的に取り組み、2012 - 14年度にはロータリー財団の管理委員となりました。「ロータリークラブの活動には素晴らしいものがたくさんあり、その多くは財団を通じて実現されている」とアーチック氏は話します。

今回、アーチック氏とのインタビューを行い、ご自身の過去とロータリーの未来について、話を伺いました。



2人目の女性RI会長となりますが、その点を強調する必要がありますか？

そうは思いません。その時々に応じたリーダーになることが重要です。ただしRI会長という役職を女性が担っていると知れば、「自分にもできるかもしれない」と勇気が出る女性がいるかもしれません。

また、私は在任中に独身である数少ない会長の一人になります。多くの人から、「私も独身ですが、RI会長就任はすごいと思う」と言われました。

配偶者の有無でこの役職の適任、不適任が決まるわけではありません。しかし、やはり自分のような状況の人がこの役職に就いたことは、多くの人にとって大きな意味があると思います。

それも多様性の一つの側面ですね。ロータリーでは、多様性に対する考え方がここ数年で変化したと思いますか？

多様性は常にロータリーの中核的価値観の一つでした。しかし、多様性の

捉え方は明らかに変化してきたと思います。男性だけの組織だった40年前と比べ、現在では多様性の意味は非常に幅広くなっています。例えば今では、ロータリークラブの在り方が自分の地域社会を反映しているかどうかが問われます。年齢、性別、宗教の他に、政治的信条や、異なる視点、異なる考え方といったことも含まれます。もしクラブが地域社会を反映しているなら、そのクラブは真に未来を掌握しているでしょう。反映していない場合、それは

クラブにとって一つの転機となります。

女性の入会が認められて間もない1991年にロータリーに入会されましたね。入会の理由、そしてロータリーにとどまった理由をお聞かせください

入会の少し前に離婚したんです。結婚していると、パートナーと食事に行ったり、旅行に行ったりします。それらが急になくなったんです。ロータリーの創設者ポール・ハリスのように「寂しかったから」、私は新しい出会いを求めています。そんな時、ある女性から、ロータリークラブの例会と一緒にいこう、と誘われました。私はロータリーについて何も知りませんでした。彼女が話してくれた奉仕活動やその国際性について、興味を抱きました。それで行ってみて、入会することに決めました。

でも、もともとは親睦が目的だったので、新しい人たちに会いたいと思い、実際にいろいろな人に出会いました。そして、すぐに奉仕活動にも参加するようになりました。4回目の例会を迎える頃には週報の発行にも携わり、既にクラブ奉仕を行っていました。クラブは、ロータリー青少年交換やロータリー財団補助金にも積極的に取り組んでいました。私には全てが驚きで、私をロータリーに夢中にさせてくれたのはこれらの活動でした。

なぜRI会長になろうと思ったのですか？ 組織のリーダーにご自身が適していると考え理由は何ですか？

RI会長になることなんて、私の視野にはありませんでした。30年以上にわたり、会員としてさまざまな形でロータリーに携わってきました。その中でも、RI戦略計画委員長を務めたことは、私の考えを大きく変える特別な機会となりました。ロータリーの長所と短所を見つめ、ロータリー内外に働きかけて、より繁栄した未来へと導

くにはどうしたら良いかを考える上で情報を得ました。

ロータリーは何十年もの間、定型の例会モデルを採用してきました。月に4回例会を開き、鐘を鳴らし、出席を取るといった具合に。世界は明らかに変化していたのに、私たちは変わっていませんでした。遅れを取り戻す必要があったのです。今では、Eクラブ、パスポートクラブ、衛星クラブ、法人クラブなど、さまざまな形態のクラブがあり、奉仕する機会があります。

私はさまざまな事例に目を通し、ロータリーは繁栄する未来へと向かっていると実感しました。これが、私が名乗りを上げた理由です。地区とクラブが行動計画を活用すれば、ロータリーは活性化すると私は信じています。それは、奉仕と親睦に多くのロータリー会員が参加する未来です。

これまでの職業人生で得たどのようなスキルを会長職に活用できますか？

私には三つの分野の経歴があります。大学時代とその後数年間は、バンドで歌っていました。ステージに立って人々を鼓舞し、踊らせ、楽しませるという経験をしました。短絡的に聞こえるかもしれませんが、この経験から本当に一連のスキルを身に付けることができました。二つ目は大学で働いたこと。主に学生がキャリアや仕事を見つめるための支援を行いました。目からうろこが落ちるような充実した経験でした。三つ目は、コンサルティングと事業開発の自営業でした。さまざまな研修と、ビジネス開発も多く行いました。今に生かされていないスキルはないと思います。全て、自分の資質の一部となっています。

何というバンド名でしたか？ 今後のイベントでステージに登場するとき、その曲が流れることがありますか？

「ハーモニアーズ」です。でもこの

バンドの曲は流れることはないですね。ロバート・パーマーの「Simply Irresistible (この愛にすべてを)」が流れたらよいと思います。

「Simply irresistible (あらがえない“魅力”)」という表現を使っていますが、特別な意味があるのですか？

私は、ロータリーが「あらがえない」魅力的なものであってほしいと願っています。ロータリークラブとローターアクトクラブが、奉仕と親睦に関心のある地域社会の人々にとって、あらがえないような魅力に満ちたクラブになることを願っています。クラブは、行動計画に沿って行動することで、現状を把握し、進むべき道を見いだすでしょう。その結果、より魅力的なクラブが誕生し、より多くの人々がクラブに定着することを願っています。

クラブはそれぞれ異なります。クラブに「こうすれば大丈夫」と保証できるマニュアルはありません。どのクラブも独自の文化を築いています。国によってロータリーの仕様は異なり、同じ地区でも全く異なるクラブが存在します。全てのクラブが時間を取って評価を行い、行動計画の四つの優先項目を確認する必要があります。そして、もう少し違った方法はないだろうか、または、それぞれの分野で既にベストを尽くしているだろうか、と自らに問いかけるのです。既にあらがえないような魅力のあるクラブであれば、そのままでもいいでしょう。私たちは、既存のクラブに人を引き付け、新たな魅力あるクラブを結成しなければなりません。それがロータリーを成長させ、未来を切り開く道なのです。

会長就任年度のテーマは？ それほどのように思い付いたのですか？

テーマは「ロータリーのマジック」です。これに、自分の好きな動詞を付けられるでしょう。「ロータリーのマ

ジックを信じよう」「ロータリーのマジックを広めよう」「ロータリーのマジックを土台に発展していこう」「ロータリーのマジックを祝おう」とか。

このテーマは、ドミニカ共和国を訪れた時の経験が基になっています。私たちは、家庭に浄水器を設置する支援をしていました。浄水器を組み立て、その中に濁った水を入れて、きれいな水が出てくるのを見せました。浄水器の使い方を教え、私たちが帰ろうとすると、1人の子どもが私の袖をつかんで言ったんです。「もう一度魔法を見せて」。この言葉が私の心を捉えました。私たちは、人々の生活に変化をもたらす手助けをしているのです。

会長として何を優先しますか？

会員増強を図る行動計画を推し進めることが、私の最優先課題です。私は、皆さんと同じようにロータリーを愛しており、ロータリーに未来があることを願っています。

私の第2の優先事項は、積極的平和を通じて分断された世界を癒やすことです。参加する方法はいくつかあります。「四つのテスト」をただ暗唱するのではなく、誰もが「四つのテスト」を実践すれば、より平和な世界が実現するでしょう。クラブが「四つのテスト」を創造的な方法で活用してくれることを願っています。そして、ピースポール（平和の柱）プロジェクトという方法もあります。クラブは、地元の公園や町の広場などに平和の柱を立てることができます。柱に書かれた平和のメッセージは、ロータリーが平和構築に取り組む団体であることを地域社会に示すものです。さらに、ロータリーにはオンラインで参加できる「積極的平和アカデミー」があります。ロータリーの会員ではなくても、誰でもこのアカデミーを受講することができます。また、ロータリー平和センターは、人々の生活を変える強力なアクティベーター（活性化因子）です。中東の



私は、ロータリーが「あらがえない魅力」であってほしいと願っています。

イスタンブールに新しい平和センターが開設されます。2025年2月にはその場所で、平和会議の開催を予定しています。

最後は継続性です。それは二つのことを意味します。指導的立場にある人たちが、その前任者や後任者と協力すること。そして、クラブが取り組んできたことや、クラブに根付いてきたことに目を向けることです。会長が退任したからといって、成功したプログラムを止めるべきではありません。仮に、クレム・レヌーフ会長やジェームス・ボーマー会長が退任後、ロータリーがポリオ根絶活動を廃止していたとしたら世界はどうなっていたでしょうか？

アーチック氏の好きな言葉の一つ「イエスと答えた後に人生はより面白くなる」について教えてください

私はよく、「イエスと言おう、考えるのはそれからいい」と人に言っています。「週報を編集してみませんか？」「イエス」。「会長になってみたいですか？」「イエス」。「これ、やってみませんか？」「イエス」。私が「ノー」と口にするのは、「ノープロBLEM」と言うときだけです。人生は多くのチャンスを与えてくれます。「イエス」の姿勢で向き合いましょう。それから次に何をすべきか考えるのです。